

組み換え稻栽培実験

高地
田支裁

「交雑可能性ない」

中央農業総合研究センター北陸研究センターが進めている（上越市）が進めている病理性を持つ遺伝子組み（上越市）が進めている。一方でセンター側の説明によれば、この問題は「遺伝子組み」ではなく、具体的損害が発生していないとしている。

培実験で、上越市の農家らが中止を求めて行った仮処分申請に対し、地裁高田支部は十七日、申し立てを却下する決定を下した。

(関連記事4件) 同セントーは六月二十日、開花を含めた生育調査と採種を目的としたGM稻の屋外栽培実験と、実験に違法の点は見られず、花粉飛散による同支部の決定書による

の情報公開を求めた。農家側は会見で「損害が発生してからでは遅い。承服しかねる」と、東京高裁に抗告する姿勢を見せて いる。

を発表、一十九日に田植えを実施。農家側は発表翌日、実験の中止を求められた。この間の返答を申請してい
た。

パク質) 遺伝子を、うるち米「どんとじい」に組み込んだもの。いもちは病菌や白葉枯病菌などに抵抗力を持ち、農薬使用量を軽減できるとする。これまで開いた五回の審尋などで、農家側は①一般稻との自然交雑の可能性を否定できない⁽²⁾子イフエンシン耐性菌の出現、外部流出が予想できることなどと問題点を指摘。同センター側は①G M稻をパラフィン紙と不織布で二重に覆い、花粉の飛散による交雑はない②これまで耐性菌出現の報告はなく、今回の実験でも可能性はない⁽¹⁾などと反論してきた。

片山秀策センター長は「決定書が届いておらず、内容の確認ができないため、コメントしかねる」と話している。

遺伝子組み換え稻
実験中止申請却下

農家の被害認めず

反対側「不当な決定」と批判

今回のGM稲はいもち
病など複数の病気に強い
病原菌に抵抗するタンパク質「ディフェンシン」

を野菜のカラシナから取
り出し、稲に導入した。

四日市大学非常勤講師

の河田昌東さんは「導入

したディフェンシンに耐

性を持つ新たな菌が発生

する可能性がある。実験

によってわざわざ新た

な耐性菌を作り出しかね

い」と主張。耐性菌の出

現を危惧する陳述書を同

支部に提出した。

ナには問題が起きており

ず、耐性菌は出でないこ

との証明」と反論する。

結局、同支部は決定書

研究されている。カラシ

ナには問題が起きており

ず、耐性菌は出でないこ

との証明」と反論する。

市内の農家、山田稔さんは

会見で怒りを隠さなかつ

て多大な損害を与えるなどし

れがあるとは認められな

い」と指摘、反対側の主

張を退けた。

「あまりにも不当な決

定」。実験反対側の上越

センター長は「稲に関して

耐性菌が出でないことは

これまでに飛躍的

に増大し、周辺農家の農

薬発生の危険性を主な争

点にし、引き続き実験中

止を求め裁判で争つてい

た。実験反対側は「耐性

と力を込めた。



仮処分申請が却下され、
会見で険しい表情を見せる
反対派の山田稔原告
代表(右から2人目)ら
17日午後7時30分す
通りプリヂ

遺伝子組み換え稻
実験中止申請却下

(GM)稲の屋外栽培実験の中止を求めた仮処分申請に対し、地裁高田支部は十七日、却下する決定をした。反対側は、病原菌に抵抗するタンパク質に耐性を持つ菌が発生しかねないことを争点の一つとしたが、認められなかった。だが、反対側の疑惑は大きく、引き続き実験中止を求める構えだ。

仮処分申請が却下され、
会見で険しい表情を見せる
反対派の山田稔原告
代表(右から2人目)ら
17日午後7時30分す
通りプリヂ